



厳しい環境変化を乗り越えるため、思い切った発想の転換や改革にチャレンジしていきます。

伊豆の国市長 望月 良和

明けましておめでとございませう。市民の皆様には、ご家族おそろいで、輝かしい新春をお迎えのことと拝察申し上げます。

わが伊豆の国市は誕生以来六年目を迎える。第一次総合計画に基づく三つの戦略と六つの柱を中心に、災害対策・子育て支援・交通対策・健康づくり・上下水道や住環境の整備・観光振興などの事業が順調に進捗しています。また昨年は、第二十四回国民文化祭が開催され、本市では江川坦庵公をメインテーマに、演劇、合唱、オペラ、歴史、文学、温泉の六つの部門で十三もの事業と応援イベントを行い、来場者やスタッフなど延べ二万五千人の方々が市内外から参加していただきました。このように、盛大にまた成功裡に終了できましたのも、市民の皆様をはじめ、議会や関係の皆様のご支援ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

さて、一昨年のアメリカ発の世界同時不況から日本経済は停滞が続いており、今年も金融や経済界に大きな波紋と変動を及ぼしそうです。また、先の衆議院議員選挙において政権が交代し、国の政策は大きく方向転換することが予想されます。

この動向は、現時点では具体的に示されておりませんが、政権与党となった民主党の「マニフェスト」を見ますと、中央集権から地域主権へを原則の一つに入れており、「中央政府は国レベルの仕事に専念」することや、「基礎的自治体が対応可能な事務事業の権限と財源を大幅に移譲」することが明記されています。このことは、基礎的自治体である本市にとって、権限と財源という裁量は増えることと

なりますが、同時に新たな事務事業を受け持つことになり、その責任と負担は重く、自治体の力量が問われることとなります。

こうしたなか、財政状況は年々厳しくなる環境下において、本市においては健全財政を堅持しているものの、歳出においては、将来を担う子供たちを守るために行う保育園、幼稚園、小中学校の耐震関連事業や、市民の生命と財産を守り、安心して安全に生活するために「浸水対策事業」など、従来からの重点課題はまだまだ山積しております。

ところで、今年の干支は「寅」です。トラは猛々しい印象が強く、強いもの、豪傑の代名詞としてよく用いられます。たとえば、日本では戦国武将の武田信玄や上杉謙信が、その武威をそれぞれ「甲斐の虎」、「越後の虎」とトラに喩えられています。

市政を運営する上でも、今のような厳しい環境変化に適合していくためには、「虎穴に入らずんば虎子を得ず」のことわざにあるように、リスクを背負いながらも思い切った発想の転換や改革にチャレンジしていく姿勢が必要とされます。

そうした意味でも今年も、トラのように力強いジャンプ力で地域の活性化を図り、交流人口の拡大を図りながら産業の振興とともに、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりを実現してまいります。

結びにあたり、新しい年が市民の皆様にとりまして、素晴らしい年となりますよう祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

議会改革調査検討特別委員会を設置し、公平、公正、透明な議会運営を目指します。

伊豆の国市議会議員 土屋 源由

第一次伊豆の国市総合計画では、基本構想実現のために、成果の見える行政運営、市民に開かれた行政運営、自主自立の行政運営の三点を掲げています。「行政」を「議会」に読み

こつしたなか、市当局においては、平成二十二年度予算の編成が始まっています。景気の落ち込みによる税収の大幅な減収、三位一体の改革による国の財政措置の縮減など、引き続き厳しい財政状況にあります。限られた財源の中で、無駄なく効果的な市民本位の予算を組み、「自然を守り、文化を育む、魅力ある温泉健康都市」の実現を目指し、行政と議会はしっかりと力を合わせていかなければなりません。

伊豆の国市も誕生から六年目を迎えますが、現在の景気の動向はどうでしょうか。百年に一度と言われているような経済不況の一部には回復傾向が見られることですが、私たちにまいったくその実感はありません。特に、地方経済は疲弊しており、依然として大変厳しいものがあり、企業の減産減収、雇用の悪化など、過去に例のない状況にあります。一日も早い回復を願うものです。

替えれば、まさに我々議会の運営にそのままあてはまります。行政と協力できる点は大いに協力し、改善すべき点はしっかりと指摘し、新たな政策提言を行い、さらに監視機能を十分発揮していかなければなりません。

私たち議会では、こつしたことを踏まえ、改めて議会本来の役割を吟味し、現在の議会運営を見直し、検討すべく、議会改革調査検討特別委員会を設置しました。目指すところは、これから地方分権型社会が進んでいく中で、議会が市民の代表として市民の負託に真摯にこころをこめて、担うべき役割を明確にし、情報発信に努め、議会本来の責務を果たし、公平、公正、透明な議会運営が図られよう努めてまいります。

過去の寅年には、新しい方向へ向かって動き出した年が多いようです。このことから今年も、昨年の総選挙において、政権交代により誕生した新政権の動向を注目し、特に、地方分権改革推進会議の勧告に基づく行動計画がどのように進んでいくか、しっかりと注視していかなければなりません。

今後、日本は真に地方の時代に向かって動き出すことになると思いますが、そうした新しい動きにも議会が的確に対応していくことが一層重要と考えます。魅力ある、伊豆の国づくりに向け、これからは皆様の変わりぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

年頭にあたり、新しい年が市民の皆様にとりまして、素晴らしい年となりますよう祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

